



令和8(2026)年度

プラスチック資源循環研究会及び  
ワーキンググループ(WG)  
活動計画のご紹介

## サーキュラーエコノミー推進事業

令和8年度～



### 趣旨

環境負荷が大きい大量生産・大量消費型のリニアエコノミーから、資源を循環させるサーキュラーエコノミーへの転換が求められています。  
このような背景のもと、サーキュラーエコノミーへの取組を支援するため本事業を実施します。

### ① セミナー（全製造事業者対象）（2回）

製造業全体を対象に、セミナーを通じて、基礎知識や課題、ものづくり変革の理解を深める。

- ・ サークュラーエコノミー実現に向けた現状と課題
- ・ サークュラーエコノミーが促進するものづくり変革

### ② プラスチック資源循環研究会（2回）

県内製造業者のプラスチック資源循環技術に関する知見を深めるため、外部有識者による先進技術・事例紹介を行う。

### ③ プラスチック資源循環ワーキンググループ（WG）

プラスチック製造事業者、再生材を製造する再資源化事業者が連携し、再生材を使用した製品の試作や物性試験等を通じて、再生材を活用した成形加工技術の高度化を図る。

# プラスチック資源循環研究会及びWGの目的



## プラスチック資源循環研究会（全2回）

県内製造業者のプラスチック資源循環技術に関する知見を深めるため、外部有識者による先進技術・事例紹介を行う。

講演：「マテリアルリサイクルに貢献するための電磁波を活用した  
プラスチック素材・添加剤の評価」

芝浦工業大学

デザイン工学部 デザイン工学科 社会情報システムコース  
教授 田邊 匡生 氏

講演：「押し出し、練り上げる、プラスチックの未来。  
～二軸混練押出機による高度リサイクル技術～」

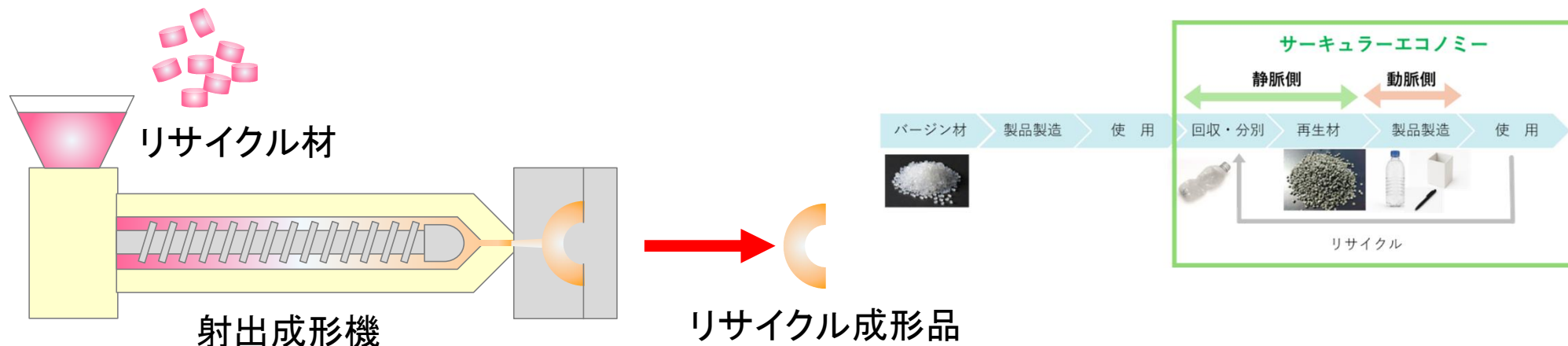
芝浦機械株式会社

成形機カンパニー 押出技術部 営業技術課  
伊藤 駿太 氏

# プラスチック資源循環研究会及びWGの目的

## プラスチック資源循環ワーキンググループ（WG）

プラスチック製造事業者、再生材を製造する再資源化事業者が連携し、再生材を使用した製品の試作や物性試験等を通じて、再生材を活用した成形加工技術の高度化を図る。



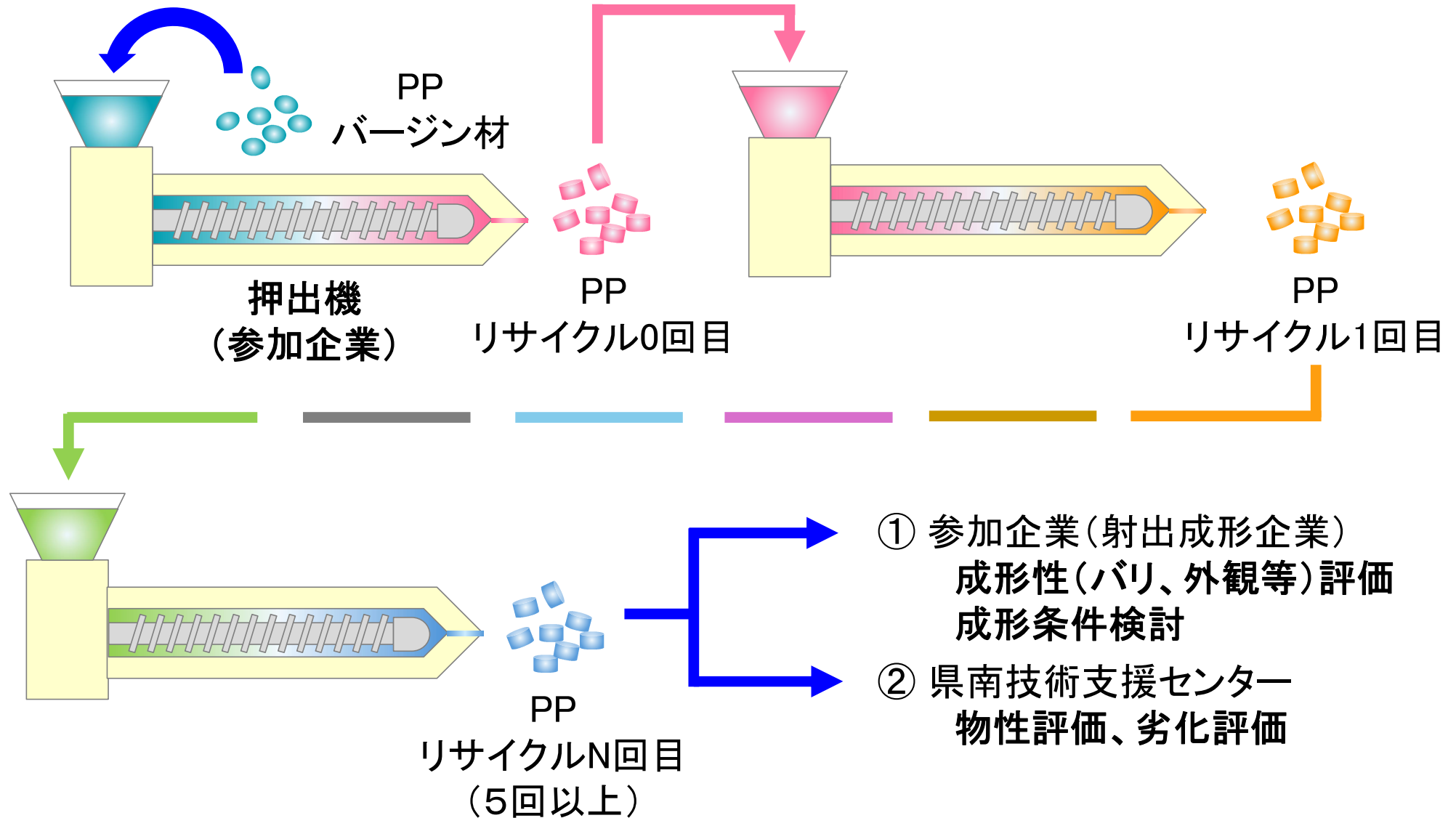
- リサイクル材では、
- ① 射出成形条件に調整が必要
  - ② 成形品不良等の**トラブル**が発生する場合は有



- ・ リサイクル材を用いた射出成形のノウハウ蓄積
- ・ リサイクル成形品の物性の把握 ⇒ **トラブルの未然防止**



## 【実証試験概要（案）】



リサイクル材での射出条件及び成形品における強度等検討し、情報共有等を通じてリサイクル材を扱う上での技術力向上を図る



## 【令和8年度 研究会・WGスケジュール】

予定時期	実施内容
6月～7月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第1回研究会、令和8年度WG参加企業募集</li></ul>
8月7日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第1回研究会</li><li>・ 第1回ワーキンググループ（実証試験の内容検討）</li></ul>
8月～12月	実証試験 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 再生材のリペレット（静脈企業）</li><li>・ 再生材の成形試験（動脈企業）</li><li>・ 物性試験等（県南技術支援センター）</li></ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第2回研究会</li><li>・ 第2回WG（実証試験結果の報告等に関する意見交換）</li></ul>

いずれも県南技術支援センター（佐野市天神町950）で開催